

# 塩谷郡市医師会だより

## Contents

- 1 塩谷郡市医師会第71回定時総会報告
- 2 平成30年度第2回役員会報告
- 3 平成30年度行事予定、学術講演会予定
- 4 学術講演会報告

一般社団法人 塩谷郡市医師会  
広報委員会

〒329-1312

さくら市桜野1319番地3

さくら市氏家保健センター内

TEL 028(682)3518

FAX 028(682)5760

## 塩谷郡市医師会第71回定時総会報告

平成30年4月14日(土)さくら市のホテル清水荘で第71回定時総会が開催された。総会に先立ち平成29年度第4回役員会が開かれ、平成29年度の事業報告、貸借対照表、損益計算書等が承認された。定時総会の前には栃木県医師連盟塩谷郡市支部の総会も開催され、平成29年決算、平成30年予算について決議された。

定時総会は定款により選出された戸村議長により議事が進められた。医師会員数98名中出席21名、委任状出席46名、計67名の出席で定足数充足が確認されたことより第71回定時総会の成立が告げられ、その後、平成29年度に物故された西川侃介先生、二戸爲茂先生に黙とうがささげられた。岡会長のあいさつの後、尾形副会長より役員会、総務会、委員会活動などの会務報告があり、その後、議事に入った。



(1)第1号議案「平成29年度塩谷郡市医師会事業報告並びに収支決算の承認を求める件」

(2)第2号議案「平成29年度塩谷郡市医師会貸借対照表及び損益計算書の承認を求める件」

(3)第3号議案「平成30年3月31日現在財産状況の報告について」

の3つの議案は関連した議案・報告であることから一括して審議が行われた。

第1号議案の事業報告を岡会長が説明し、収支決算および第2号、第3号議案について阿久津副会長が

説明した。第1号議案については森島監事から監査報告があった。3つの議案について質疑の結果、賛成多数で承認された。

(4)第4号報告事項「平成30年度塩谷郡市医師会事業計画並びに収支予算の報告について」

岡会長から事業計画が、阿久津副会長から収支予算の説明があった。

(5)第5号議案「会館建設準備積立金への繰入と取崩の承認を求める件」

阿久津博美副会長より30年度に助成金(事業交付金)の入金があるため10,000,000円を会館建設準備積立金に繰入後、3,000,000円の取り崩しを行うことの説明があり、賛成多数で承認された。

「理事及び監事選挙執行」

議長より4月8日までの立候補届出者は、理事定数12名のところ12名、監事定数2名のところ2名の立候補であり無投票当選とする旨、報告があった。

(6)第6号議案「平成29年度、平成30年度理事及び監事の承認を求める件」

新理事12名と監事2名について個々に裁決を諮り賛成多数で承認された。

(7)第7号議案「平成29年度、平成30年度代表理事(会長)及び副代表理事(副会長)の承認を求める件」

新任された理事及び監事による役員会の結果、代表理事(会長)岡一雄、副代表理事(副会長)尾形新一郎、副代表理事(副会長)阿久津博美を互選した。その後総会にて上記全員異議なく、可決承認された。

(8)第8号議案 栃木県医師会代議員・予備代議員の承認を求める件

選任された新理事及び新監事による役員会において、栃木県医師会代議員及び予備代議員が互選され、総会で全員異議なく可決承認された。

定時総会終了後に、隣室にて懇親会が開催された。阿久津副会長の司会進行で歓談が行われた。

塩谷郡市医師会ホームページ/メール	広報委員会編集部	医師会事務局
URL <a href="http://www.tochigi-med.or.jp/shioya/">http://www.tochigi-med.or.jp/shioya/</a> メール <a href="mailto:shioya@tochigi-med.or.jp">shioya@tochigi-med.or.jp</a>	高橋雄二 <a href="mailto:uppaship@fa2.so-net.ne.jp">uppaship@fa2.so-net.ne.jp</a>	齋藤 <a href="mailto:saitou.shioya@gmail.com">saitou.shioya@gmail.com</a> 高橋 <a href="mailto:takahashi@e-shioya.jp">takahashi@e-shioya.jp</a>



## 平成 30 年度第 2 回役員会報告

出席者：岡会長、尾形・阿久津副会長、佐藤勇人会計担当理事、村井(信)・村井(成)・半田・仲嶋・植木・高橋・手塚・嶋尾理事、中嶋・佐藤(泉)監事



平成 30 年 5 月 21 日 (月) 午後 7 時から阿久津副会長の司会により開催された。

- (1) 冒頭に会長方針として、在宅医療連携拠点事業は 29 年度で終了したが、在宅医療・医療と介護の連携については引き続き当医師会としてフォローしていくこと、また、災害医療対策については、委員会を開催し取り組みたい旨の挨拶があった。
- (2) 平成 30 年度の年間計画については右記のとおり決定した。
- (3) 平成 30 年度の塩谷郡市医師会の各種委員委員長について選任され、その後各委員会の担当理事より今後 1 年間の抱負などの発表があった。
- (4) 栃木県医師連盟塩谷郡市支部役員が選任された。
- (5) その他
  - 1) 平成 30 年度第 14 回市民公開講座は 10 月 14 日(日) さくら市氏家公民館で開催される予定。「胃がん」をテーマに基調講演が計画されている。
  - 2) 塩谷郡市医師会及び栃木県医師会以外にも地域の様々な委員会があることについての意見があった。
  - 3) 7 月 20 日にさくら市医師団により「納涼会」を開催するので出席をお願いしたい。
  - 4) 12 月 2 日に「塩谷郡市医師会のゴルフコンペ」を企画しているので参加をお願いしたい。

## 平成 30 年度郡市医師会行事予定

### 平成 30 年

- 4 月 10 日 (火) 研修委員会学術部会
- 4 月 14 日 (土) 第 7 1 回定時総会
- 4 月 23 日 (月) 第 1 回総務会
- 5 月 21 日 (月) 第 2 回役員会
- 6 月 16 日 (土) 栃木県医師会定時代議員会
- 7 月 12 日 (木) 郡市・大学医師会正副会長懇談会
- 7 月 20 日 (金) 納涼会 (さくら市医師団)
- 8 月 27 日 (月) 第 2 回総務会
- 9 月 10 日 (月) 社会活動委員会
- 9 月 25 日 (火) 第 3 回役員会
- 10 月 14 日 (日) 第 14 回市民公開講座 (さくら市)
- 12 月 1 日 (土) 郡市・大学医師会正副会長懇談会
- 12 月 2 日 (日) ゴルフコンペ (アローエース GC : 6 組)

### 平成 31 年

- 2 月 18 日 (月) 第 3 回総務会
- 3 月 11 日 (月) 第 4 回役員会
- 4 月 20 日 (土) 第 5 回役員会  
第 7 2 回定時総会

注：委員会については 5 月 30 日時点で予定が決まっているものを記載。

## 平成 30 年度学術講演会等予定表

### 平成 30 年

- 5 月 15 日 (火) 不眠症
- 6 月 12 日 (火) 便秘
- 7 月 10 日 (火) てんかん
- 9 月 11 日 (火) 県立がんセンター
- 10 月 23 日 (火) 循環器勉強会
- 10 月 25 日 (木) 認定産業医ケースカンファレンス研修会
- 11 月 8 日 (木) 認定産業医研修会
- 11 月 13 日 (火) 消化器勉強会
- 12 月 11 日 (火) 運動器勉強会

### 平成 31 年

- 1 月 18 日 (金) 主治医研修会・情報交換会  
(東日本ホテル)
- 1 月 22 日 (火) かかりつけ医認知症研修会(第 1 回)
- 1 月 29 日 (火) かかりつけ医認知症研修会(第 2 回)
- 2 月 12 日 (火) 小児科勉強会

注：5 月 30 日時点での予定のため、日程やテーマなどを変更する場合があります。

## 学術講演会 1

「塩谷エリアにおける災害医療とその現状」

日時：平成 29 年 11 月 14 日(火)

講師：国際医療福祉大学塩谷病院 副院長

一瀬 雅典 先生



「上部消化管疾患の臨床～最近の動向を含めて～」

講師：済生会宇都宮病院消化器内科 主任診療科長

田原 利行 先生

塩谷病院が県内 11 番目の災害拠点病院に指定された。災害医療では限られた医療資源を効率よく提供する必要がある。一瀬先生は CSCATTT の実践と EMIS による情報共有の重要性を強調された。田原先生からは近年ピロリ菌による胃潰瘍は減少傾向だが、NSAIDs や抗血小板療法による薬剤性潰瘍は増加している。特に抗血小板療法中の出血性胃潰瘍は重篤な転機をとることもあるため、PPI 投与が重要であることが示された。(橋本 敬)

## 学術講演会 II

「在宅医療の役割を考える」

日時：平成 29 年 11 月 20 日(月)

講師：村井クリニック 院長 村井 邦彦 先生



最初にご自身のクリニックで取り組んでいる在宅医療、在宅緩和ケアさらに地域貢献活動としての講演会、ネットワーク作り、スポーツ活動支援や食支援など様々な分野への活動状況を説明して頂きました。次に統計資料より読み

取れる日本の高齢化、認知症高齢者の増加、それに伴う医療費を含めた社会保障費の急激な増加など深刻な日本の将来像を解説して頂き、現在の根治を目指した治療重視の高齢者医療から必ずしも根治を目指さないケア重視の医療への意識の変換も必要ではないかと述べられました。その後病院から在宅へのスムーズな移

行をどうすればよいか、主治医意見書の書き方まで言及していただき、最後には在宅診療を経て看取りに至った症例を提示して頂きました。(佐藤 泉)

## 学術講演会 III

「抗血栓治療における法的問題とその対処法」

日時：平成 29 年 12 月 12 日

講師：北浜法律事務所・外国法共同事業

医師・弁護士 長谷部 圭司 先生

先生には日頃漠然と理解している様に思っていた IC(informed consent)、説明義務の範囲、医師の裁量権について事例を提示しながら具体的な説明をして頂きました。またガイドラインや添付文書の重要性を強調されておられました。



「新たな視点での認知症治療～合併症や BPSD への対処を中心に～」

講師：香川大学医学部 精神神経医学講座

教授 中村 祐 先生



先生には前半でコリンエステラーゼ阻害薬と NMDA 受容体阻害薬についてそれぞれ薬剤の特徴や使い方のポイント、使用時の注意点を説明して頂きました。後半では

BPSD への対応と向精神薬をどうしても使う場合の使用法と注意点を説明して頂きました。(佐藤 泉)

## 学術講演会 IV

「皮膚疾患のかゆみと治療」

日時：平成 30 年 1 月 19 日(金)

講師：自治医科大学 皮膚科学講座



准教授 前川 武雄 先生  
前川准教授には、痒みを伴う疾患として湿疹皮膚炎群・薬疹・虫刺症など皮膚科的には一般的な疾患に関して解説しつつ、治療に関してご説明頂いた。

写真を多用され視覚的にも解かりやすく、皮膚科を専門とされない先生方にも比較的アプローチしやすい内容でした。最後に抗アレルギー薬の使い方につき

解説されその特徴、注意点などが日々の診療に直接結びつく内容の講演会でありました。(池田 雄一)

## 学術講演会V

「予防接種のQ&Aアップデート」

日時：平成30年2月6日(火)

講師：川崎市健康安全研究所 所長 岡部 信彦 先生



岡部先生は感染症や予防接種の第一人者として活躍されている。その先生を講師としてお迎えし、会員から事前に質問を募集しそれに答える形の講演会を行った。接種時期のずれた場合や予防接種の種類によ

りなぜ接種間隔が違うのか、中断している子宮頸がんワクチンの事まで、我々が日常予防接種に従事していて疑問に感じていた多くの点に歯切れよく答えていただき、大変実りある講演会であった。尚、余談になるが、岡部先生は感染症の歴史にも造詣が深いことを知り、本会発行の『幕末・明治・大正期の医療』を贈呈した所、さっそく読破され、ちょうど執筆中であった『チャイルドヘルス7月号』の脱水症とコレラに関する部分の参考文献として使用していただいた。チャイルドヘルスを購読されている小児科の先生はぜひご覧ください。(岡 一雄)

## 学術講演会VI

「不眠症治療の最前線～ガイドラインをふまえて～」

日時：平成30年5月15日(火)

講師：獨協医科大学看護学部 看護医科学(病態治療) 教授 宮本 雅之 先生

不眠を訴える患者さんが多い現状で、一般開業医も不眠についての知識と睡眠剤の使用法について熟知する必要がある。また、ベンゾジアゼピン系睡眠薬の依存性と使用



量増加が指摘され診療報酬上の制限が出るのではないかとされている。今回の講演会は「不安もしくは睡眠障害に関わる適切な研修」に該当しており、多くの会員が参加した。宮本先生は不眠治療のガイドライン、依存性の少ない新しい睡眠剤の使用法などをわかりやすく解説してくれた。(岡 一雄)

## 戸村光宏先生『おさんぽ おさんぽ』出版

「あっちゃんのゆれないうち、おじいさんのゆれる心」と本の帯に書かれている。時々遊びに来る孫のあっちゃんの言動は、おじいさんの心を揺り動かし、ずっと記憶の底に沈んでいた子どもの頃を思い出させる。その思い出話は、世の中がまだのどかで情緒たっぷりだった昭和という時代を鮮やかに読者の前に再現する。まさに戸村ワールド全開の話集で、米倉万美さん(見川鯛山の娘さん)のイラストが視覚的な懐かしさを増させる。読み聞かせに使ってもらうために県内の全小学校に寄贈したそうだが、むしろ大人や高齢者の琴線に触れそうな作品である。しもつけのこころ出版、県内の大型書店で取り扱い中である。



## 『幕末・明治・大正期の医療』

### 国会図書館月報書評に！

2年前の春に本医師会が発行した『幕末・明治・大正期の医療 塩谷の地から「醫」をさぐる』が国立国会図書館月報5月号の「本屋にない本」という書評で取り上げられた。日本では国立国会図書館法により国内で出版されたすべての出版物を国会図書館に納入することが義務付けられており、納本された出版物は文化的遺産として後世に継承される。国会図書館の年間の受け入れ点数は、雑誌や新聞、マイクロ資料までも含めると4000万点を超え、本に限っても1000万冊を超える膨大な数である。本屋にない(売られていない)本がどのくらい納本されているかわからないが、その中で毎月1冊しか紹介されない書評に取り上げられたのは大変名誉なことである。ぜひ会員の先生方は国会図書館ホームページの月報5月号をご覧ください。

## ※新入会員紹介



平成30年4月1日入会  
倉持整形外科 宝積寺  
院長 栗橋 章 先生